

アグアスだより

2014年6月号

理想の父親像

6月15日は「父の日」。「父の日」には父親にバラを贈る習慣だそうですが、私はもらったことがありません。メキシコにも「父の日」がありますが、「母の日」に比べて盛り上がりには欠けるように思います。やはり、父親には母親ほどの存在感はないのでしょうか。今月は、「父の日」にちなんで、理想の父親像についての話題を提供します。

かつて、毎日新聞に、アニメに登場する父親像の推移が紹介されたことがあります。それによると、60年代以降の主な父親像は以下のようなのだといます。

- 60年代前半 『ジャングル大帝』パンジャ（強く威厳のある亡父）
- 60年代後半 『巨人の星』星一徹（厳しく乗り越えられない存在）
- 70年代前半 『ダメおやじ』天野ダメ助（家族にも虐げられるダメ社員）
- 80年代前半 『ドラえもん』パパ（厳しい母のなだめ役、存在感希薄）
- 80年代後半 『YAWARA』猪熊虎滋郎（娘に敗れ、家出する古典的柔道家）
- 90年代前半 『ちびまる子ちゃん』さくらひろし（娘に呼び捨てにされる情けない父）
- 90年代後半 『クレヨンしんちゃん』野原ひろし（激しい母子間に埋もれる緩衝材）

この記事によれば、アニメに登場する父親像は、時代につれて「情けない姿」になっているといます。これは時代や世相の反映でしょうか。もうひとつ、昨年実施された「お

父さんにしたいマンガキャラクター」の調査ランキングです（eBookJapan 2013）。

- 1位 荒岩一味『クッキングパパ』／2位 島耕作『島耕作シリーズ』／3位 野原ひろし『クレヨンしんちゃん』／4位 とーちゃん（小岩井）『よつぱと！』／5位 磯野波平『サザエさん』／6位 平賀キートン『MASTERキートン』／7位 バカボンのパパ『天才バカボン』／8位 河地大吉『うさぎドロップ』／9位 柳沢良則『天才柳沢教授の生活』／10位 榎木春美『赤ちゃんと僕』

1・2位には納得のいく人格者が選ばれていて、父親の権威も回復傾向にあることがうかがえます。ダントツ1位に輝いたのは、「クッキングパパ」こと荒岩一味。彼の1位は、最近のテレビ番組等で「イクメン」が特集され、世間の注目を集めていることも影響しているのかもしれませんが。どうやら現代の父親像の代表は、「いくめんパパ」のようです（註）。

一方で、時代の流れにまったく迎合しない独自の父親像もあります。ある興味深い本があります。家庭の父母や子どもたちを、次男の目からユーモラスに描いた快作です。父親は小説家で、その父親の子育てが、シンプルな信念で貫かれていて、実にユニークな父親像となっています。父親の子育ての結果、4人子ども達がそれぞれ強い個性を發揮しながら、独自の世界で立派に成長していく様子が描かれています。父親の家庭での子育て方針を、いくつか書き出してみましよう。

- 父親の仕事にみなで協力すること。作家にとって執筆に専念できるかどうかは死活

問題です。幼い頃から、父親が執筆しているときは、母親は徹底して子どもたちを静かにさせます。それを通して、仕事の厳しさを体得させたのでしょう。

○ 親の遊びを子どもにもさせたこと。野球、サッカー、テニス、ゴルフ、ヨットなど、父のやる遊びを一緒にやらせることで、マナーの徹底や習得を通して、親の人生哲学を理解させたかったのでしょう。また、遊びを通して、親も子どもの適性を見たかったのかもしれませんが。

○ 子どもから大人への段階を、「食事」ではっきり教えたこと。この家では食事の時間を、子どもは母親と6時から、父親は7時からと分けていました。それが高校生になると、父親と一緒に食事になります。食事中は、徹底して会話が鍛えられます。早口で情熱的な父親と丁々発止とやり合うのですから、子どもの頭も口も鍛えられることになります。

○ 子煩悩を隠さなかったこと。あたかも帝王のような父親が、子どもの宿泊先に必ず電話をしている姿は、子煩悩そのものです。ある夜のこと、次男が叔父の家を訪れたとき、例の電話が2回もかかってきて、叔父との兄弟げんかに発展してしまったことがエピソードとして語られています。

この本には、母親はあまり登場しません。しかし、母親は夫の考えを子どもたちに徹底させ、その一方で、頑固な夫に、子どもたちの願いを伝えるクッション役になっています。そうした母親の「夫操縦術」は、読んでいてほほえましく、また、子どもたちのだれもが、そうした母親を頼りにし尊敬している様子が伝わってきます。夫婦百組いれば、百通りの子育てがあるものです。「いくめんパパ」ばか

りではなく、百通りの理想の父親像があつてよいのかもしれませんが。この作家の子育ても、本校のご家庭の参考にさせていただければ幸いです。（『石原家の人びと』石原良純著）

「おれの人生はつまらなくなんかない。家族がいる幸せを分けてやりたいぐらいだぜ」。悪に立ち向かう、「しんちゃんのパパ」こと野原ひろしの言葉です。彼を支えるのは愛する家庭の存在です。どのように時代が変わっても、家族を守り、家庭を統合し、理念を掲げ、子どもに文化を伝え、社会のルールを教えるのが、父親の大切な役割です。また、それこそが人生最大の幸せといえるでしょう。私も「いくめんパパ」にはなれませんが、自分の生き方を示すことで、子どもたちに人生の指針を与える存在でありたいと願っています。

（註）調査対象や集計方法が異なる報告もあり、この結果が唯一のものではありません。

6月学校行事

- 3日（火）水泳教室④
- 4日（水）4時間授業（1～4年）
- 5日（木）スクールキャンプ①
- 6日（金）スクールキャンプ②
- 7日（土）英検
- 9日（月）カレーの日、読み聞かせ
教育相談週間始
- 11日（水）クラブ③ 12日（木）水泳教室⑤
- 13日（金）教育相談週間終
- 18日（水）授業参観、クラブ④
- 19日（木）水泳教室⑥
- 20日（金）中学部期末テスト①
- 22日（日）漢検
- 23日（月）中学部期末テスト②、豚井の日
- 25日（水）クラブ⑤
- 26日（木）水泳教室（発表会）